



年表 大阪港の歩み

時代	年代	主なできごと
古代	500~600	<p>難波津が住吉津とともに国際港としてさかえる</p> <p>小野妹子らが遣隋使として船で難波津~中国間を往復する(607)</p>  <p>難波堀江の想像図(大阪歴史博物館蔵)</p>
平安~鎌倉		<p>渡辺津が淀川河口でさかえる</p>
安土・桃山		<p>豊臣秀吉のころ市内に多くの堀・運河がつくられ船が行きかう</p>
江戸	1600	<p>河村瑞賢らによって安治川が開かれる(1684)</p>
	1700	<p>大和川が付けかえられ、安治川に流れこむ土砂が減ってくる(1704)</p>
	1800	<p>菱垣廻船や樽廻船によって全国の産物が大阪に集まる</p>
天保のころ		<p>安治川の川ざらえがおこなわれ、その時出た土や砂を積み上げて天保山ができる(1831~1832)</p>  <p>本朝名所「大坂天保山」 船の目じるし山にした。高さ20mほど。</p>
	1860	<p>川口運上所(今の税関)ができる(1867)</p>
明治(1868~)		<p>大阪港が開港する(1868)</p>
	1870	<p>大阪港がせまくて浅いため大きな船が入港できなくなる</p>
	1880	<p>大阪のまちが大洪水になり淀川を付けかえる声が高まる(1885)</p> <p>大阪港を国際貿易港にという声が高まる(1885)</p>
	1890	<p>「みおつくし」が大阪市のしるしになる(1894)</p> <p>オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケによって新しい築港計画書がつくられる(1894)</p> <p>築港の大工事がはじまる(1897)西村捨三らが活躍する</p>
	1900	<p>築港大栈橋ができる(1903)</p> <p>花園橋から築港へ市電が開通する(1903)(市による電気鉄道では日本ではじめて)</p>
大正(1912~)	1910	<p>予算が足りなくなったこと、むずかしい工事が重なったことなどで築港事業がしばらくとまる(1916)</p> <p>築港事業が再開される(1918)</p>
	1920	<p>天保山栈橋ができる(1922)</p> <p>第1号岸壁が完成する(1926)</p>